

お ばあちゃんのくれるヒグマとエゾシカから考えた

今はスーパーでおいしくて手軽に食べられるお肉。簡単に手に入るのにはおばあちゃんやシカやヒグマの肉をわざわざ持ってきてくれる。シカやヒグマのお肉はおいしいけれど、味にもお肉にも毎回違う。ぼくは正直スーパーで買うお肉の方が安定しておいしく思っている。森で暮らす動物を捕獲してまで食べる必要性はあるのかなと思うことがある。食料を供給している時代ならわかるけれど、今の時代に森で暮らす動物をわざわざ捕獲して食用にする必要があるのだろうか。平取のハンター門別徳司君に話を聞いてきた。



アモシカもこれ一本でござる



里に暮らすエゾシカ

首をねらう、臓を傷けたまま歩かせていようと、射撃技術が必要。わね猟も盛んです。ただエゾシカのわねにヒグマがかかることもある。しかかったエゾシカをヒグマにやられることもあります。仕かける場所によつて、里にヒグマを寄せてしまう問題もあるんです。人間の都合で駆除するのには、やっぱり躊躇があります。

アイヌのハンター 門別 徳司君

実家「ゴールデンカムイ」の狩猟監督。平取町在住。アイヌの狩猟を守るために、アイヌの狩猟を再現。若手ハンターの育成にも力を入れる。



ヒグマの爪のペダント

十年ハンターの先輩について山も覚え、たし、解体の仕方もある。一頭を解体するのには、時間がかかりませんよ。基本山で解体します。そのまま運びより、山で解体した方が運びやすいでしょ。羊矢(やや)を外に出ることは何回もあります。エゾシカは、内臓をむき出しにしながらさう山も超えるくらい歩ける。だから頭や



命へのプライド 北のハンター新聞

狩 猟のSDGs

命をばうけれど自然界には必要なハンター

- 9 産業・技術革新の基盤をつくろう
- 15 陸域生態系保護
- 11 持続可能な都市とコミュニティ

実はハンターのおかげでSDGsが進んでいる。

ハンターが足りない！

全国的にハンターが足りないのはなぜ？

- ① 市街地に出る獣が増えたのに、ハンター数はかわらない。
- ② 過労化と高齢化
- ③ とくにセグマハンターは技術と経験が必要
- ④ 若いハンターはいれば引き継がれない

エゾシカの被害額 48億4600万円! (牧草、水稲、デントコーン、ビトなど)

野生の謎解き者であるハンター

どやって獲物を捕獲するのですか？

- ① その狩猟場の地形や植生を見て鹿や熊がどう行動するか推理に見つけ、銃や罠で捕まえる。(足跡・フン・毛がセト)
- ② 野生重力物の攻撃や遭難事故を避けるために狩りのルール(鹿を刺さらない、いらない肉を山に捨てない、夜間禁止など)を理解した上で、動物の動きを推理する力が要求される。

シカ肉は赤身が多くたんぱく質が多いためアミノ酸や鉄が豊富。しかし現在捕獲されたエゾシカの14万5000頭のうち3万4000頭(約24%)ほど。(ぼくは、学校給食でエゾシカも食用にできるのではと考えてみた。)

本校ではエゾシカを給食に食べてもらうよう海苔はじめています。エゾシカの肉を使ったキーマカレーは子どもたちにも食べやすい味に仕上がりました。ただ、新食料の採用にはアレルギー、流通面の安全性、食やちも厳しくチェックします。

ハンターのお給料

もうかりますか？ 1日 25000円!

1頭の狩で2頭のエゾシカが獲れた場合

駆除費(1頭)	8000円	2頭	16000円
買取価格	10000円	2頭	20000円
燃料代	3000円		
解体費	3000円	2頭	6000円
解体体費	1000円	2頭	2000円
合計			36000円
収入			11000円

編集後記

命としての獣 vs ハンターの役割

けがと捕獲されたヒグマにもとどめをさすことを知た。人間の生活エリアで人間が安全に暮らせるようにハンターは徹底していた。人間の命や経済と引き換えのヒグマの命だと分かった。オジビエ料理は、その山に暮らしては命だ。命を大切にしたいためにハンターはいかに捕獲処理する。そのハンターも野生動物とは命をとり合う関係だともいえる。人間と野生動物の関係を保つ役割以外に、ハンターは、ジビエの力として安全なおいしいお肉を生み出す撃ち方、解体の技術、知識がおいびにのびる。それを知るとハンターは、多くのの人に認められる存在だと思った。命を無駄にしないために給食化をよりすすめていってほしいと思った。

ハンターへの道

- STEP 1 狩猟免許を取る
- STEP 2 警察署で銃砲所持許可を取る
- STEP 3 狩猟者登録をする
- STEP 4 狩猟技術を身につける
- STEP 5 狩猟の道に進む